

総務の 365日

大掃除・整理整頓が 社内コミュニケーション活性化に繋がる

～年末ならではのイベントを活用した職場の活性化～

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

コミュニケーション活性化の大義名分

師走は、一年の締めくくりと共に、新しい一年に向けての意識の高まる時。意識が高まる時なので、この時期に体感したことは意識に自然と浸透します。だからこそこの時期お勧めなのが、年末の大掃除というイベントの活用です。

多くの企業で大掃除を実施しています。その効果を改めて考えて直すと、働く場の環境整備はもとより、実はコミュニケーションの活性化にも役立ちます。

大掃除という、コミュニケーション・ツール

あるメーカーでの話です。この企業では、従来より衛生委員が各フロアに1～2名任命されていました。大掃除の推進のために、経営トップの承認を経て全部署に衛生委員を配置し、その委員から構成される「衛生委員会」が中心となり、年末本社一斉大掃除の準備を進めました。

そして、当日は役職者を含めて、全員で一斉に行つたことで、日頃話をしたことがない人とコミュニケーションが取れたり、上司の意外な一面を見たりと、終わった後は皆、達成感があったとのこと。経営層の後押しや各委員の部門担当者の推進力もあり、不要な書類の一掃で倉庫スペースに余剰もでき、想定以上の成果があった、という事例でした。

＜経営層のお墨付き＞＜各部署の巻き込み＞ ＜担当者の責任感＞が3大ポイント

ここで大切なのは、経営層のお墨付きと、全部署における担当者の配置です。まず、経営トップからの号令により実施することで、総務部が勝手にやっているというイメージを払拭。そうすると、とりあえず「やらなければいけない」という雰囲気になります。しかしそれでも「やらされ感」には変わりありません。そこで、各部署に担当者を置き、会議を何回か開催し、その担当者の責任感を醸成することにより、担当者に自分事として捉えてもらい、所属部署を引っ張っていってもらうことがポイントです。

そして、キャビネットの整理整頓や、コピー機周り等の共用部分の掃除を通じて、普段話す機会の少ない社員同士の会話が

なされたり、書類の廃棄の判断を仰ぐために上司と部下の会話がなされたりと、掃除という何気ない作業を通じてコミュニケーションの活性化が図られます。全社で同時刻に同じ作業をする機会は希少です。掃除前と掃除後=Before - After を比べるなどしてイベント化することで、さらに盛り上がります。コミュニケーション活性化と環境整備のいい機会なので、直前に大掃除の広報をするのではなく、計画を練り、全社を巻き込みながら周到な準備をして臨みたいものです。

「対話」を生み出す「整理整頓」

今回、大掃除を取り上げ、それがコミュニケーション活性化に繋がることを解説しました。掃除と同じ目的である「整理整頓」をベースに、組織変革コンサルティングを行う今村敦剛さんは「整理整頓」から得られるコミュニケーション促進効果を次のように記しているので参考にしてください。

- ・共通の話題になりやすい：整理整頓は、人事であろうが経理、営業、製造であろうが、やることは同じ。「あの書庫、雑然としているよね」「そうだね。不便だよね」という具合に、話がしやすくなる。
- ・誰でもアイデアを出して実行できる：整理整頓のアイデアは、上司でなくとも出せる。社歴の長い社員が、長年の経験則から出すアイデアとは異なり、新入社員でも出せる。上司の承認をもらわなくても試せる。全員でアイデアを出し、即実行できる活動である。
- ・結果がすぐにに出る：アイデアを出し、実行すれば、すぐに職場内の見た目が変わる。便利になったという実感も湧き、改善結果が体感しやすい。

結果が出れば、もっとやろうという気持ちになります。共通の話題になり、皆でアイデアを出し、取り組む。結果が出たから、もっとやりたくなる——このように、職場内で「対話」が促進される好循環が生まれ、そこに関わる人達の相互理解が深まります。整理整頓が「対話の機会」「対話の場」となるのです。

今年の全社一斉大掃除は、ぜひコミュニケーション活性化を目指して実施してみてください。



豊田 健一

『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。



株式会社レイ イベント事業本部様

<オフィス移転の狙い>

- ①会議室不足のジレンマを解消し、効果的な会議を促したい。
- ②ホスピタリティに満ちた受付でお客様をお迎えしたい。

会議・商談スペース 会議室を増やすだけでなく、用途と目的に合わせて「予約可能な会議室」と「予約不要な打ち合わせコーナー」で柔軟性をアップ

<予約可能な会議室>



お客様へのプレゼンに最適な 120 インチの大型スクリーンを備えた大会議室。社員を一堂に集めての集会も行えます。



社員用のシンプルな会議室。ホワイトボードに投影できる超短焦点プロジェクターは、投影資料に書き込みができる会議がはかどります。



「予約不要の打ち合わせコーナー」は社員に大人気。思い立ったときにすぐに打ち合わせができる、会議室不足のストレスも解消されました。運用を変えるだけで違いますね。



<予約不要な打ち合わせコーナー>



天井まで仕切っていないスペースにすることで、サッと集まってフランクに打ち合わせが行えます。

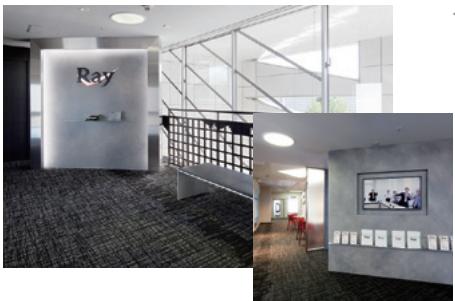


眺めの良い場所にハイテーブルのミーティングコーナーを配置。気軽に使える人気のスペースです。



受付横の打ち合わせコーナーは、急な来客や、パートナーとの短時間の打ち合わせにぴったり。

<受付>



会社のイメージを発信する受付は、最先端の映像テクノロジーを駆使するクールな印象に。また、受付横にサイネージを埋め込み設置。受付でお待ちいただくお客様が、社員自らが登場する映像で楽しんでいただく工夫をしています。

壁面に埋め込んだサイネージはお客様に好評。楽しくイベントに取り組む社風と、映像企画自体のPRがでて一石二鳥です。



業務ご担当の早川様

コミュニケーションがはかどり、コーポレートイメージを発信できるオフィスになりました。

お客様情報

株式会社レイ イベント事業本部様

所在地：東京都大田区

会社設立：1981 年 従業員数：390 名

事業内容：広告宣伝市場をターゲットとする広告ソリューションとデジタル映像インフラを活用して、実制作と演出を行うテクニカルソリューションを、お客様のご要望に沿って組織力・技術力・表現力を組み合わせ、ワンストップで提供。